

2日で現代演劇を斬る！

浜松  
劇人

第61回浜松市芸術祭  
はままつ演劇・人形劇フェスティバル2015

# 西川 泰功の 劇評ワークショップ

～わたしに見える光景が、みんなに見えるとは限らない～

劇評を書く——その前に、もっと基本的なことを考えたい。私たちが、ものを書いて、人に伝えるとは、どういう営みなのか。インターネットが普及し、簡単に文章を発信できる時代になりました。ツイッターやフェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用している人も多いでしょう。

けれど、ちょっとインターネットで遊んだ経験がある人なら感じるはず。世の中には無数に同じ意見の人がいて、同じ傾向を持った人ばかり集まって、“多様性のある場”ができていないのではないかと——

劇評ワークショップを通して、同調圧力に左右されず、「わたしの意見」を書くための秘訣を探りたいと思います。

- 【内 容】 1) 1回目は、講師のレクチャーの後、演劇の資料映像を見ます。  
2) 2回目までに、資料映像の劇評を提出していただきます。  
3) 2回目は、講師から劇評の講評をし、参加者と一緒に議論します。

【日 時】 ①8月1日(土)  
②8月16日(日)  
14:00～17:00  
※16日は終了後30分劇評賞の説明有

【会 場】 南部協働センター  
第2講座室  
※駐車場に限りがございますので、  
公共交通機関をご利用下さい。

【定 員】 20名

【参加費】 要申込み  
一般1,000円  
高校生以下500円  
※参加回数にかかわらず同一料金です。

【持ち物】 筆記用具

【申込方法】 表面をご覧ください

※ 劇評ワークショップ受講者に限り、希望者は、右記劇評賞応募を条件に演劇公演フリーパスを贈呈いたします。

## 講師プロフィール



### 西川 泰功

Nishikawa Yasunori

ライター

1986年山口県生まれ。2015年現在、静岡市在住。静岡アート郷土史プロジェクト 芸術批評誌「DARA DA MONDE (だらだもんで)」編集代表(オルクナティブスペース・スノドカフェ発行)。「DARA DA MONDE」では編集や執筆と同時に読書会等の企画を行う。創作も手がけ、

西河真功名義の小説『懐妊祝い』で第23回早稲田文学新人賞最終候補。2014年1月「はままつ演劇・人形劇フェスティバル2015」の合同企画『天使は何を食べている？』に詩『出来損ないの子守唄』寄稿。2015年1月SPAC-静岡県舞台芸術センター『グスコブドリの伝記』でドラマトウルク担当。批評・創作ともに、現代社会の変化に呼応する人間の葛藤を、芸術文化の伝統を踏まえて描き出すことを重視している。